

別表3 看護師教育の基本的考え方、留意点等

教育の基本的考え方	
1	人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として、幅広く理解する能力を養う。
2	人々の健康と生活を、自然・社会・文化的環境とのダイナミックな相互作用等の観点から理解する能力を養う。
3	人々の多様な価値観を認識し専門職業人としての共感的態度及び倫理に基づいた看護を實踐できるとともに、最新知識・技術を自ら学び続ける基礎的能力を養う。
4	人々の健康上の課題に対応するため、科学的根拠に基づいた看護を實踐できる基礎的能力を養う。
5	健康の保持増進、疾病予防と治療、リハビリテーション、終末期など、健康や障害の状態に応じた看護を實踐するための基礎的能力を養う。
6	保健・医療・福祉制度と他職種の役割を理解し、チーム医療を實踐するとともに、人々が社会的資源を活用できるように、それらを調整するための基礎的能力を養う。

教育内容		単位数	留意点
基礎分野	科学的思考の基盤	13	「専門基礎分野」及び「専門分野」の基礎となる科目を設定し、併せて、科学的思考力及びコミュニケーション能力を高め、感性を磨き、自由で主体的な判断と行動を促す内容とする。 人間と社会を幅広く理解出来る内容とし、家族論、人間関係論、カウンセリング理論と技法等を含むものとする。 国際化及び情報化へ対応しうる能力を養えるような内容を含むものとする。 職務の特性に鑑み、人権の重要性について十分理解させ、人権意識の普及・高揚が図られるような内容を含むことが望ましい。
	人間と生活、社会の理解		
小計		13	
専門基礎分野	人体の構造と機能	15	人体を系統だてて理解し、健康・疾病・障害に関する観察力、判断力を強化するため、解剖生理学、生化学、栄養学、薬理学、病理学、病態生理学、微生物学等を臨床で活用可能なものとして学ぶ内容とする。 演習を強化した内容とする。
	疾病の成り立ちと回復の促進		
	健康支援と社会保障制度	6	人々が生涯を通じて、健康や障害の状態に応じて社会資源を活用できるように必要な知識と基礎的な能力を養う内容とし、保健医療福祉に関する基本概念、関係制度、関係する職種の役割の理解等を含むものとする。
小計		21	
専門分野 I	基礎看護学	10	専門分野 I では、各看護学及び在宅看護論の基盤となる基礎的理論や基礎的技術を学ぶため、看護学概論、看護技術、臨床看護総論を含む内容とし、演習を強化した内容とする。 コミュニケーション、フィジカルアセスメントを強化する内容とする。 事例等に対して、看護技術を適用する方法の基礎を学ぶ内容とする。 看護師として倫理的な判断をするための基礎的能力を養う内容とする。
	臨地実習	3	
	基礎看護学	3	
小計		13	

教育内容		単位数	留意点
専門分野Ⅱ	成人看護学	6	臨床実践能力の向上を図るため、演習を強化した内容とする。 各看護学においては、看護の対象及び目的の理解、予防、健康の回復、保持増進及び疾病・障害を有する人々に対する看護の方法を学ぶ内容とする。
	老年看護学	4	老年看護学では特に、生活機能の観点からアセスメントし看護を展開する方法を学ぶ内容とする。
	小児看護学	4	精神看護学では、精神の健康の保持増進と精神障害時の看護を統合的に学習できるような内容とする。
	母性看護学	4	
	精神看護学	4	
	臨地実習	16	知識・技術を看護実践の場面に適用し、看護の理論と実践を結びつけて理解できる能力を養う内容とする。 チームの一員としての役割を学ぶ内容とする。 保健医療福祉との連携・協働を通して、看護を実践できる能力を養う内容とする。
	成人看護学	6	
老年看護学	4		
小児看護学	2		
母性看護学	2		
精神看護学	2		
小計		38	
統合分野	在宅看護論	4	在宅看護論では地域で生活しながら療養する人々とその家族を理解し在宅での看護の基礎を学ぶ内容とする。 在宅で提供する看護を理解し、基礎的な技術を身につけ、他職種と協働する中での看護の役割を理解する内容とする。 在宅での終末期看護に関する内容も含むものとする。
	看護の統合と実践	4	チーム医療及び他職種との協働の中で、看護師としてのメンバーシップ及びリーダーシップを理解する内容とする。 看護をマネジメントできる基礎的能力を養う内容とする。 医療安全の基礎的知識を含む内容とする。 災害直後から支援できる看護の基礎的知識について理解する内容とする。 国際社会において、広い視野に基づき、看護師として諸外国との協力を考える内容とする。 看護技術の総合的な評価を行う内容とする。
	臨地実習	4	訪問看護に加え、多様な場で実習を行うことが望ましい。
	在宅看護論	2	
	看護の統合と実践	2	
小計		12	
総計		97	3,000時間以上の講義・実習等を行うものとする。

教育の基本的考え方

- 1) 人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として、幅広く理解する能力を養う。
- 2) 人々の健康と生活を、自然・社会・文化的環境とのダイナミックな相互作用等の観点から理解する能力を養う。
- 3) 人々の多様な価値観を認識し専門職業人としての共感的態度及び倫理に基づいた看護を実践できるとともに、最新知識・技術を自ら学び続ける基礎的能力を養う。
- 4) 人々の健康上の課題に対応するため、科学的根拠に基づいた看護を実践できる基礎的能力を養う。
- 5) 健康の保持増進、疾病予防と治療、リハビリテーション、終末期など、健康や障害の状態に応じた看護を実践するための基礎的能力を養う。
- 6) 保健・医療・福祉制度と他職種役割を理解し、チーム医療を実践するとともに、人々が社会的資源を活用できるよう、それらを調整するための基礎的能力を養う。

教育内容	2年課程		2年課程(通信制)				留意点	
	2年課程 (定時制)	単位数	通信学習					
			単位数	備考				
基礎分野	科学的思考の基盤	7	7	1単位の授業科目を45時間の学修に相当する内容にすること。また、1単位ごとに1レポート、単位認定試験等を課すことを標準として、達成度を確認すること。			<p>「専門基礎分野」及び「専門分野」の基礎となる科目を設定し、併せて、科学的思考力及びコミュニケーション能力を高め、感性を磨き、自由で主体的な判断と行動を促す内容とする。</p> <p>人間と社会を幅広く理解出来る内容とし、家族論、人間関係論、カウンセリング理論と技法等を含むものとする。</p> <p>国際化及び情報化へ対応しうる能力を養えるような内容を含むものとする。</p> <p>職務の特性に鑑み、人権の重要性について十分理解させ、人権意識の普及・高揚が図られるような内容を含むことが望ましい。</p>	
	人間と生活・社会の理解							
	小計	7	7					
専門基礎分野	人体の構造と機能	10	10	1単位の授業科目を45時間の学修に相当する内容にすること。また、1単位ごとに1レポート、単位認定試験等を課すことを標準として、達成度を確認すること。			<p>准看護師で学んだ内容を踏まえ、人体を系統だてて理解し、健康・疾病・障害に関する観察力、判断力を強化するため、解剖生理学、生化学、栄養学、薬理学、病理学、病態生理学、微生物学等を臨床で活用可能なものとして学ぶ内容とする。演習を強化した内容とする。</p> <p>人々が生涯を通じて、健康や障害の状態に応じて社会資源を活用できるように必要な知識と基礎的な能力を養う内容とし、保健医療福祉に関する基本概念、関係制度、関係する職種の役割の理解等を含むものとする。</p>	
	疾病の成り立ちと回復の促進							
	健康支援と社会保障制度							
	小計	14	14					
専門分野Ⅰ	基礎看護学	6	6	1単位の授業科目を45時間の学修に相当する内容にすること。また、1単位ごとに1レポート、単位認定試験等を課すことを標準として、達成度を確認すること。			<p>専門分野Ⅰでは、各看護学及び在宅看護論の基盤となる基礎的理論や基礎的技術を学ぶため、看護学概論、看護技術、臨床看護総論を含む内容とし、演習を強化した内容とする。</p> <p>コミュニケーション、フィジカルアセスメントを強化する内容とする。</p> <p>事例等に対して、看護技術を適用する方法の基礎を学ぶ内容とする。</p> <p>看護師として倫理的な判断をするための基礎的能力を養う内容とする。</p> <p>准看護師で学んだ内容を踏まえ、問題解決能力を強化する。</p>	
	臨地実習	紙上事例演習		病院見学実習及び面接授業				
		単位数	備考	単位数	備考			
		基礎看護学	2	1	3事例程度	1	各専門7分野ごとに病院見学実習2日及び面接実習3日	2年課程(通信制)については、紙上事例演習、病院等見学実習、面接授業で代える。
		小計	8	7	3事例程度	1		

教育内容	2年課程 2年課程 (定時制)		2年課程(通信制)				留意点				
	単位数	単位数	通信学習		単位数	備考					
			単位数	備考							
専門分野II	成人看護学	3	3	1単位の授業科目を45時間の学修に相当する内容にすること。また、1単位ごとにレポート、単位認定試験等を課すことを標準として、達成度を確認すること。			臨床実践能力の向上を図るため、演習を強化した内容とする。 各看護学においては、准看護師で学んだ疾病・障害を有する人々に対する看護の方法だけでなく、看護の対象及び目的の理解、予防、健康の回復、保持増進についての看護の方法を学ぶ内容とする。 成人看護学では、成人期の特徴に基づいた看護を学ぶとともに、終末期看護に関する内容も含むものとする。 老年看護学では特に、生活機能の観点からアセスメントし看護を展開する方法を学ぶ内容とする。				
	老年看護学	3	3								
	小児看護学	3	3								
	母性看護学	3	3								
	精神看護学	3	3								
	臨地実習			紙上事例演習	病院見学実習及び面接授業		知識・技術を看護実践の場面に適用し、看護の理論と実践を結びつけて理解できる能力を養う内容とする。				
				単位数	備考	単位数	備考				
成人看護学	2	1	3事例程度	1	各専門7分野ごとに病院見学実習2日及び面接実習3日	チームの一員としての役割を学ぶ内容とする。					
老年看護学	2	1	3事例程度	1		保健医療福祉との連携、協働を通して、看護を実践できる能力を養う内容とする。					
小児看護学	2	1	3事例程度	1		多様な看護実践の場(病院、施設等)で実習する。					
母性看護学	2	1	3事例程度	1		2年課程(通信制)については、紙上事例演習、病院等見学実習、面接授業で代える。					
精神看護学	2	1	3事例程度	1							
小計	25	20	15事例程度	5							
統合分野	在宅看護論	3	3	1単位の授業科目を45時間の学修に相当するないようにすること。また、1単位ごとにレポート、単位認定試験等を課すことを標準として、達成度を確認すること。			在宅看護論では地域で生活しながら療養する人々とその家族を理解し在宅での看護の基礎を学ぶ内容とする。  在宅で提供する看護を理解し、基礎的な技術を身につけ、他職種と協働する中での看護の役割を理解する内容とする。  在宅看護の対象は高齢者が多い現状を踏まえ、在宅看護論と老年看護学を相補うように内容を組み立て、効果的な学習ができるよう考慮する。  在宅での終末期看護に関する内容も含むものとする。  チーム医療及び他職種との協働の中で、看護師としてのメンバーシップ及びリーダーシップを理解する内容とする。 看護をマネジメントできる基礎的能力を養う内容とする。  医療安全の基礎的知識を含む内容とする。  災害直後から支援できる看護の基礎的知識について理解する内容とする。  国際社会において、広い視野に基づき、看護師として諸外国との協力を考える内容とする。  看護技術の総合的な評価を行う内容とする。				
	看護の統合と実践	4	4								
	臨地実習							紙上事例演習	病院見学実習及び面接授業		
								単位数	備考	単位数	備考
	在宅看護論	2	1					3事例程度	1	各専門7分野ごとに病院見学実習2日及び面接実習3日	訪問看護に加え、多様な場で実習を行うことが望ましい。
看護の統合と実践	2	1	3事例程度	1	通信制を除く2年課程では、専門分野での実習を踏まえ、実務に即した実習、複数の患者を受け持つ実習、一勤務帯を通じた実習を行う。また、夜間の実習を行うことが望ましい。  2年課程(通信制)については、紙上事例演習、病院等見学実習、面接授業で代える。						
小計	11	9	6事例程度	2							
総計	65		65				2,180時間以上の講義・演習等を行うものとする。				

別表4 (略)

別表5 教育内容と留意点等(保健師・看護師統合カリキュラム)

教育内容		単位数	留意点	
基礎分野	科学的思考の基盤	13		
	人間と生活・社会の理解			
	小計	13		
専門基礎分野	人体の構造と機能	15	保健福祉行政論を含む内容とし、事例を用いて政策形成過程等に関する演習を行う。	
	疾病の成り立ちと回復の促進			
	健康支援と社会保障制度	8		
	健康現象の疫学と統計	4		保健統計学を含む内容とする。
	小計	27		
専門分野Ⅰ	基礎看護学	10		
	臨地実習	3		
	基礎看護学	3		
	小計	13		
専門分野Ⅱ	成人看護学	6		
	老年看護学	4		
	小児看護学	4		
	母性看護学	4		
	精神看護学	4		
	臨地実習	16		
	成人看護学	6		
	老年看護学	4		
	小児看護学	2		
	母性看護学	2		
	精神看護学	2		
		小計		38
	統合分野	在宅看護論		4
地域看護学		10		
地域看護学概論		2		
個人・家族・集団の生活支援		8		
地域看護活動展開論				
地域看護管理論				
看護の統合と実践		4		
臨地実習		8		
在宅看護論		2		
地域看護学		4		
個人・家族・集団の生活支援実習		2		
地域看護活動展開論実習		2		
地域看護管理論実習				
看護の統合と実践	2			
	小計	26		
総計		117	3,645時間以上の講義・実習等を行うものとする。	

別表6 教育内容と留意点等(助産師・看護師統合カリキュラム)

	教育内容	単位数	留意点
基礎分野	科学的思考の基盤	13	
	人間と生活・社会の理解		
	小計	13	
専門基礎分野	人体の構造と機能	15	基礎助産学の一部を含む内容とする。
	疾病の成り立ちと回復の促進		
	健康支援と社会保障制度	6	
	小計	21	
専門分野 I	基礎看護学	10	
	臨地実習	3	
	基礎看護学	3	
	小計	13	
専門分野 II	成人看護学	6	基礎助産学の一部を含む内容とする。 基礎助産学の一部を含む内容とする。
	老年看護学	4	
	小児看護学	4	
	母性看護学	4	
	精神看護学	4	
	基礎助産学	5	
	助産診断・技術学	6	
	地域母子保健	1	
	助産管理	1	
	臨地実習	25	
	成人看護学	6	
	老年看護学	4	
	小児看護学	2	
	母性看護学	2	
	精神看護学	2	
	助産学	9	
	小計	60	
統合分野	在宅看護論	4	
	看護の統合と実践	4	
	臨地実習	4	
	在宅看護論	2	
	看護の統合と実践	2	
	小計	12	
	総計	119	3,790時間以上の講義・実習等を行うものとする。

別表7 機械器具、標本、模型及び図書(保健師養成所)

品目	数量
家庭訪問用具	
家庭訪問指導用具一式	学生数
家庭用ベッドまたは布団一式(成人・小児用)	学生5人に1
リネン類(各種)	適当数
清拭用具一式	学生5人に1
排泄用具一式	学生5人に1
機能訓練用具	各々学生5人に1
車椅子(各種)	
歩行器(各種)	
自助具(各種)	
在宅ケア保健指導用具	
診察用具一式	学生5人に1
酸素吸入装置	1
経管栄養用具一式	学生5人に1
予防接種用具一式	学生5人に1
小児保健指導用具	
沐浴指導用具一式(沐浴用人形、沐浴槽等)	学生5人に1
調乳指導用具一式	学生5人に1
離乳食指導用具一式	学生5人に1
育児用品一式(発達段階別)	学生5人に1
歯科指導用具一式	学生5人に1
乳幼児発達検査用具	学生2人に1
母性保健指導用具	
出産準備用具	学生5人に1
家族計画指導用具	学生5人に1
乳房腫瘍触診人形	学生10人に1
成人、高齢者保健指導用具	
検査用具一式(塩分測定器、加リ-カウンター、皮厚計等)	各々学生5人に1
健康増進関連機器	各々適当数
握力計	
肺活量計	
背筋力計	
体脂肪計	
エルゴメーター	
検査用器具	
血圧計	学生5人に1
聴診器	学生5人に1
採尿・採血用具一式	学生5人に1
検眼用具一式	学生5人に1
ポータブル心電計	適当数
計測用器具	各々1
体重計(成人・小児用)	
身長計(成人・小児用)	
産業保健指導用環境測定器	各々適当数
照度計	
騒音計	
粉塵計	
疲労測定器	
水質検査用機器	
各種模型	
実習用モデル人形	学生5人に1
乳房マッサージ訓練モデル	適当数
人工呼吸訓練人形	適当数
胎児発育順序模型	適当数
受胎調節指導用具一式	適当数
栄養指導用フードモデル(各種)	適当数
保健指導用パネル	適当数
視聴覚教材	
VTR装置一式	1
ビデオカメラ	適当数
教材用ビデオテープ、DVD等	適当数
カメラ	適当数
オーバーヘッドプロジェクター	適当数
カセットテープレコーダー	適当数
ワイヤレスマイク	適当数
その他	
パーソナルコンピューター	適当数
複写機	1
印刷機	1
図書	
保健師教育に関する図書	1,500冊以上
学術雑誌	20種類以上

備考 視聴覚教材は、同様の機能を有する他の機器で代替することができる。

別表3 機械器具、標本、模型及び図書(助産師養成所)

品目	数量
分娩台	2
分娩介助用器具	
分娩介助用機械器具一式	学生4人に1
分娩介助用リネン一式	学生4人に1
器械台、ベースン、カスト、カスト台、	各々適当数
点滴スタンド等	
ファントーム	学生10人に3
沐浴用具	各々学生4人に1
沐浴用トレイ	
沐浴槽	
沐浴用人形	
新生児用衣類	
トラウベ式棒状聴診器	学生2人に1
ドップラー	2
妊娠暦速算器	学生4人に1
診察台、椅子	2
新生児用ベッド	2
保育器	1
新生児処置台	1
リネン類(各種)	適当数
家庭分娩介助用具一式	適当数
家庭訪問指導用具一式	学生4人に1
計測用器具	各々適当数
体重計、巻尺、血圧計、骨盤計、児頭計測器等	
手術用器具	
子宮内容清掃用具一式	1
吸引娩出器	1
産科鉗子	適当数
縫合用具一式(持針器、針等)	学生4人に1
新生児救急処置用具一式	学生10人に1
酸素吸入器具	適当数
排泄用具一式	各々適当数
浣腸用具一式	
導尿用具一式	
調乳用具一式	適当数
離乳食調理用具一式	適当数
栄養指導用フードモデル(各種)	適当数
実習モデル人形	各々学生10人に1
気管内挿管訓練人形(新生児用)	
妊婦腹部触診モデル人形	
新生児人工蘇生人形	
乳房マッサージ訓練モデル	適当数
各種模型	
乳房解剖模型	2
骨盤底筋肉模型	2
骨盤径線模型	2
子宮頸管模型	適当数
内診模型	適当数
骨盤模型	2
胎児発育順序模型	2
ベッサリー指導模型	学生4人に1
受胎調節指導用具一式	学生4人に1
プレストシールド	適当数
視聴覚教材	
VTR装置一式	1
ビデオカメラ	適当数
教材用ビデオテープ、DVD等	適当数
カメラ	適当数
オーバーヘッドプロジェクター	適当数
カセットテープレコーダー	適当数
ワイヤレスマイク	適当数
その他	
パーソナルコンピューター	適当数
複写機	1
印刷機	1
図書	
助産師教育に関する図書	1,500冊以上
学術雑誌	20種類以上

備考 視聴覚教材は、同様の機能を有する他の機器で代替することができる。



別表9 機械器具、標本、模型及び図書(看護師養成所)

品目	数量
ベッド	
成人用ベッド(電動ベッド、ギャッジベッド、高さ30cmを含む。)	学生4人に1
小児用ベッド	2
新生児用ベッド	2
保育器	1
床頭台	ベッド数
オーバーベッドテーブル	ベッド数
患者用移送車(ストレッチャー)	1
担架	1
布団一式	2
実習用モデル人形	
看護実習モデル人形	学生10人に1
注射訓練モデル	1
静脈採血注射モデル	1
気管内挿管訓練モデル	1
救急蘇生人形	1
導尿訓練モデル	2
浣腸訓練モデル	2
乳房マッサージ訓練モデル	1
沐浴用人形	学生4人に1
ファントム	1
看護用具等	
洗髪車	1
清拭車	1
沐浴槽	学生4人に1
排泄用具一式(各種)	適当数
処置用具等	
包交車	1
診察用具一式	1
計測器一式	1
救急処置用器材一式(人工呼吸器含む。)	1
注射用具一式(各種)	適当数
経管栄養用具一式	1
浣腸用具一式(各種)	適当数
洗浄用具一式(各種)	適当数
処置台又はワゴン	ベッド数
酸素吸入装置	1
吸入器	1
吸引装置	1
心電計	1
煮沸消毒器	1
消毒缶(各種)	適当数
手術用手洗用具一式(各種)	適当数
小手術用機械器具一式	1
機能訓練用具	
車椅子(各種)	適当数
歩行補助具(各種)	適当数
自助具(各種)	適当数
在宅看護用具	
手すり付き家庭用風呂	1
簡易浴槽	適当数
台所設備一式	1
車椅子用トイレ	1
低ベッド(家庭用)	1
リネン類(各種)	適当数
標本及び模型	各々1
人体解剖	
人体骨格	
血液循環系統	
頭骨分解	
心臓解剖	
呼吸器	
消化器	
脳及び神経系	
筋肉	
皮膚裁断	
目、耳の構造	
歯の構造	
鼻腔、咽頭、喉頭の構造	
腎臓及び泌尿器系	
骨盤径線	
妊娠子宮	
胎児発育順序	
受胎原理	
栄養指導用フードモデル(各種)	適当数

視聴覚教材	1
VT3装置一式	1
ビデオカメラ	1
教材用ビデオテープ、DVD等	1
カメラ	1
オーバーヘッドプロジェクター	1
カセットテープレコーダー	1
ワイヤレスマイク	1
その他	1
パーソナルコンピューター	1
複写機	1
印刷機	1
図書	1
基礎分野に関する図書	1,000冊以上
専門基礎分野及び専門分野に関する図書	1,500冊以上
学術雑誌	20種類以上

備考 視聴覚教材は、同様の機能を有する他の機器で代替することができる。

別表10 (略)